

## Do CL Column

### How to Make the Grade

#### I 成績のつけ方への上手いやり方

IACL News letter: Vol. 15, No. 5 (May, 2013)から

—ロードアイランド大学 George Dombi

私は現在、ロードアイランド大学（アメリカ東海岸R. I. 州）で化学部教師の仕事をしています。今週は試験期間で、私はおよそ300人分の採点をして最終成績をつけます。一人につき10分を要すると、合計3000分で、50時間の手作業になります。

2つのことでこの仕事を切り抜けます：自動車旅行とCLです。実際にどちらにもCLが大きく影響します。

ピッツバーグ・PA（ペンシルバニア州）にある家族の家まで車で10時間かかります。だいたい2、3時間ごとに休憩所で休憩をとり、散歩するよう長時間のドライブから学びました。

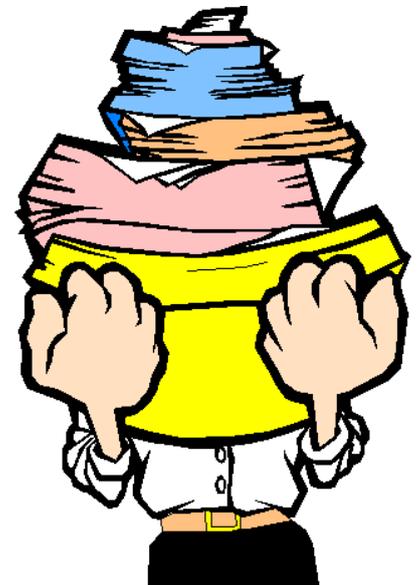
そこで、大学での採点の作業では、2時間毎に仕事を中断して、犬を散歩させる、シャワーをする、食事、昼寝などをしてひと休みします。座ったままの状態を変える必要があります。はかどる日は4から5回の2時間の作業ができます。

CLから「先払い」を学びました。辞めるか、始めないかの強い欲求があるとき、初めの2時間で最初のめんどくささを切り抜けます。まず自分にいくつかの小さい目的にするよう言い、さらに仕事が終わりに近づいて、自分の努力に感謝する将来の自分のために、プレゼントとして、もうあと10頁をするよう自分に課します。

これはばかげたトリックのようですが、私には効きます。すぐに始められ、いつもどおり2時間で終わられるか、だいたい2時間一区切りの仕事が終わられると見込みが立ちます。

最も厳しいのは、同時に別のことをしなくてはならない時で、採点が終わらないかもしれない不安でパニック状態で心が流されます。たいてい別の仕事を今の採点仕事からの一種の休憩として使います。山のような全ペーパーを見ると、いつ終わるのかと途方に暮れます。小さい目的を設定して、一つ一つこなしていくと完成したペーパーの足跡を残し、仕事が終わったという自信は、次のことをする時間が与えられたことにつながります。

時々自分が間違ったり、私が出した特別な質問にクラスの80%が間違っただけで前のテストを採点した方法を変えたくなり、また途方に暮れます。最悪なのは何をすべきかであれこれ迷うことです：成績を変えるか、変えないか？どの成績に変えるか（AかBかCか…）。成績をやっと決めて実現すると調和は戻ります。迷ったまま実行しないより、目的を持って決めて実行するのは、どういうわけか簡単です。



「座るか、立ちなさい。但しぐずぐず迷わず」と禅の言葉をCLが引用するのは本当に正しいと思います。私の場合、それは「成績をそのままにするか、AかBかCに変えるか、公平ではないとかで迷うなら、ものごとは良くなるらない」。改めてレイノルズ先生に「ありがとう」を言います。自分の努力で仕事を成し（自力）、いろいろな助けで仕事が成せること（他力）、きちんとした仕事の成功で得た自信でもっと大きな計画を立てられることを教えていただき、お礼申し上げます。  
(アメリカ・ロードアイランド州CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)